

## 議 事 要 旨

区 分	摘 要
会 議 名	徳島県がん診療連携協議会 緩和ケア部会会議
日 時	令和3年1月12日(火) 18:00～20:00
場 所	Web会議
出 席 者	宮本会長、寺嶋部会長(緩和ケア部会) 川人委員、奥村委員、大田委員(徳島大学病院) 片岡委員(県立中央病院)、安藤委員(県立三好病院) 佐藤委員、町田委員(徳島赤十字病院)、 片山委員(徳島市民病院)、福川委員(県介護支援専門協会)、 山村委員(徳島県鳴門病院)、米川委員(患者会)、岩下委員(県薬剤師会)、 延委員(吉野川医療センター)、勝瀬委員(県立海部病院) 松岡委員(県看護協会)、
欠 席 者	鎌村委員(徳島県保健福祉部、荒瀬委員(近藤内科病院) 東山委員(県歯科医師会)、藤原委員(阿波病院) 豊田委員、石本委員(県医師会)
陪 席	徳島大学病院：横田副看護部長、川下看護師長、宮越技術補佐員 徳島県保健福祉部：前田氏、徳島県立中央病院：有馬氏 徳島県立三好病院：菅原氏 徳島県医師会：大門氏、玉木氏
議 題	寺嶋部会長の進行のもと、徳島県がん診療連携協議会緩和ケア部会がWeb開催された。 (新型コロナウイルス感染予防のためWeb開催) <b>【報告事項】</b> ○都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 緩和ケア部会報告 寺嶋部会長から、令和2年12月11日に国立がん研究センターで開催された「令和2年度第8回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会緩和ケア部会」について、別紙資料に基づき次のとおり報告があった。議事次第のとおり当日はWeb開催された。①厚生労働省健康局がん・疾病対策課 成田朋子様より、第3期がん対策推進基本計画の緩和ケアの質の向上に向けた戦略等に関する説明があった。②日本緩和医療学会理事長神戸大学医学部附属病院の木澤義之先生より、緩和ケア研修会事業等について、同じく専門的・横断的緩和ケア推進委員会委員長で国立がん研究センターの加藤雅志先生より、緩和ケアチーム活動の支援に関する取り組みについて報告があった。③新型コロナウイルス感染症流行下での都道府県における診療の質の改善や緩和ケア研修会等の活動について、事前アンケートの結果説明があった。秋田大学医学部附属病院の安藤秀明先生より、秋田県で取り組んだオンラインでの病院間のピアレビューを実施したことについて、事前準備や当日の運営についてご紹介があり、緩和ケア研修会や相互評価に関する意見交換がなされたとの報告があった。④最後の議事として、がん診療連携拠点病院等の指定要件の見直しについて、事前アンケートの結果を紹介し、今後も引き続き意見交

換を行っていくことが確認されたとの報告があった。

(都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会緩和ケア部会資料については  
[https://ganjoho.jp/med\\_pro/liaison\\_council/p\\_care/shiryo8.html](https://ganjoho.jp/med_pro/liaison_council/p_care/shiryo8.html)参照)

○各病院の現状報告

各委員から別紙資料1に基づき各施設の現状報告があった。

(徳島大学病院 奥村委員)

別紙配布資料参照：緩和ケアチームの活動は、資料を参照していただきたい。今年度、4月より身体症状の医師が交代となった。4月から11月までの期間で、緩和ケアチームへの新規依頼数、緩和ケア診療加算、苦痛のスクリーニングジーと件数、緩和ケアが依頼数の報告があった。

(徳島赤十字病院 町田委員)

別紙配布資料参照：当院での2020年度の新たな取り組みとして緩和ケア診療加算算定開始を行い、緩和ケア入院診療加算、外来緩和ケア管理料を6月から、末期心不全の緩和ケア入院診療加算を9月から開始した。また、緩和ケアチーム全員が専任であるが4名から構成される緩和ケアチームの設置を行った。なお、全員が専任のため医師の診療も多忙でチームでの活動時間も限られるため加算の件数はそれほど多くはない。緩和ケアチームへの新規依頼数、緩和ケア診療加算、苦痛のスクリーニングシート件数、緩和ケア外来数の報告があった。

(徳島県立中央病院 片岡委員)

別紙配布資料参照：2020年4月～11月の緩和ケアチーム新規依頼数、緩和ケア診療加算件数、苦痛のスクリーニングシート件数、緩和ケア外来数、介入の口腔ケア患者数の報告があった。新規依頼数について当院には整形外科の軟部腫瘍専門医師がおり転移性骨腫瘍の症例が多いため整形外科が比較的多くなっている。緩和ケア診療加算件数は概ね毎月100件前後、対象人数は10人前後である。2020年8月から入院のスクリーニングも開始した。外来緩和ケア管理料は算定していないが、外来は20人弱で推移している。当院PCTは歯科メンバーがいないため、入院中の歯科医対応件数を表示しているとの報告があった。

寺嶋部会長から、入院でのスクリーニングシートはどのように運用しているのかとの質問があった。

片岡委員から、入院予定の患者に病棟に置いてあるスクリーニングシートを配布している。記入して回収したシートと対応看護師がどのように対応したか記入するシートがあり、ホッチキス止めをして緩和ケアチームが毎週回収を行っているとの回答があった。

(徳島市民病院 片山委員)

別紙配布資料参照：市民病院は緩和ケア病棟があったが、昨年8月から新型コロナウイルス感染者の受入れ病棟となったため緩和ケアチームへの依頼が減少している。依頼も少ないため、緩和ケア診療加算の算定も減少している。転帰についてはDPCを入院の一般病棟

で行っているため1か月または2か月程度で転院または在宅につながるようにはしている。苦痛のスクリーニングシートについては基本、がんの患者に配布を行っているが9月以降入院患者も減っているため回収も減っているとの報告があった。

(徳島県立三好病院 安藤委員)

別紙配布資料参照：緩和ケアチーム新規依頼数はあまり変動ない。緩和ケア診療加算は精神科医師がいないため非加算。スクリーニングシートもあまり多くはないとの報告があった。

寺嶋部会長から、緩和ケア病棟の入院数はどうかとの質問があった。

安藤委員から、少し減っているとの回答があった。

(近藤内科病院 荒瀬委員代理で寺嶋部会長)

別紙配布資料参照：当日荒瀬委員が欠席されたため寺嶋部会長が代理で報告を行った。昨年と比較して記載していただいた。入院相談件数、新規入院が増加となっている。新型コロナウイルス流行の影響で面会制限を行っているなど記載していただいたとの報告があった。

片岡委員から、タブレット面会、状態悪化時の対応など各病院でどのように対応をされているのか知りたいとの質問があった。

片山委員から、面会制限を行っているため面会が出来ない。付き添いを希望される家族の方は患者と同様で院外に出られないなど制限された生活をしていただくようになっている。また、病状説明を行う上で家族に病院に来ていただき、その際には少し面会ができているとの回答があった。

寺嶋部会長から、その他の施設はどうかとの質問があった。

奥村委員から、当院では全病棟は面会禁止となっており、医師の説明時のみ家族に来ていただいているとの報告があった。

延委員から、当院も面会禁止となっており、説明時や見取りのみ許可をしている。また、患者の着替えなどの荷物は受付で看護師が病棟から下りてきて受け渡しを行っているとの報告があった。

勝瀬委員から、当院も面会禁止となっており病院から説明などの要請があれば来ていただいている。ターミナル期の見取り時には医師の許可で家族2名までとして来ていただき他の部屋に入らないなど約束を守っていただき面会をしているとの報告があった。

#### ○緩和ケア研修会報告について

寺嶋部会長から、2020年度開催された緩和ケア研修会報告を行っていただきたいとの要望があった。

徳島大学病院宮越技術補佐員から、当院は令和3年1月17日開催を予定している。参加者は18人(うち医師・歯科医師以外3人)。ただし、現状では新型コロナウイルス感染予防のために病院からも対策の指示があり、グループワークなどは工夫しながら行う予定であるとの報告があった。

寺嶋部会長から、今年度は他施設も色々と大変な状況の中、研修会を無事に開催していただいた。今年度は新型コロナウイルス感染の影響で、他県では開催していない施設もあるとの報告があった。

寺嶋部会長から、来年度の緩和ケア研修会について何かご意見等ないかとの質問があった。

徳島大学病院宮越技術補佐員から、今年度多数の訪問看護ステーションなど医療従事者からの申込みがあった。ただ、新型コロナウイルス感染予防のため当院では人数制限や、他施設からの受講者人数も制限をしていた。ただ、申込み時期が開催日より1か月以内に集中しており定員に達していたためお断りした。もう少し早い段階から申込みをしていただけるよう工夫をしてはどうかとの意見があった。

片山委員から、訪問看護ステーション等から問い合わせがあり、がんの患者が在宅に多数移行していることから、緩和ケア研修会を受講したいとの要望があり、各施設で分散して受入れいただきたいとの要望があった。

寺嶋部会長から、厚労省から明確な指針が出てこないため、来年度については様子を見ながら各県で開催を行っていききたいとの意見があった。

#### ○徳島県医師会緩和ケア小委員会報告について

徳島県医師会事務局玉木氏から、石本委員が出席予定であったがまだ到着していないとの報告があった。

寺嶋部会長から、徳島県医師会緩和ケア小委員会副委員長のため、代理で行いたい。今年度は事業が出来ておらず、医師会に要望等あれば意見を伺いたいとの要望があった。

片山委員から、連携している在宅医との意見交換を行ったが、在宅医の先生は一人で行っている方が多く、在宅医同士がもう少し連携するなどあれば在宅医も一人で抱えて受け入れを断ることもなくなるのではないかとの意見があった。

寺嶋部会長から、カバーを行えられるような体制や、グループなどがあれば助かるのかもしれない。そのような内容を医師会が段取りしていただければよいのではないかとの意見があった。

片山委員から、長崎県では連携が出来ているため、講師として招いて講演会を開催頂くなどしていただけないかとの要望があった。

福川委員から、在宅の現状ではコロナ禍で在宅での見取りを希望される方が増えている。ケアマネジャーは、地域連携する場合には見取りをしていただける医師を探すのに苦労している。家族としてもバックベッド等で心配されている。患者や家族が安心して在宅で過ごしていただけるようにケアマネジャーの重要な役割であるのが現状であるとの報告があった。

安藤委員から、当院では在宅も勧めているが、見取りの医師、訪問看護の方に来ていただき退前カンファレンスを行い、決めごとを作っておけば安心して在宅に移行していただけるとの報告があった。

寺嶋部会長から、医師会には受け皿について議論をいただいたため、今後検討をしていきたいとの意見があった。

## 【協議事項】

### ○来年度の緩和ケア研修会について

寺嶋部会長から、来年度の緩和ケア研修会も新型コロナウイルスの影響でどうなるのかわからないが、今年度通り計画を立てるといっているので進めていきたいとの要望があった。

片山委員から、例年通り計画を行い、今年度のように感染拡大時には延期を行うので良いのではないかと意見があった。また、医療従事者の方の受入れもお願いしたいとの要望があった。

片岡委員から、当院で開催時は濃厚接触者にならない、濃厚接触者を出さないなど14日間が終わるまで非常に精神的に苦痛であった。できれば、徳島県はこのような予防や基準でしていますなど決めていただければありがたいとの要望があった。

寺嶋部会長から、各病院が行ったことなど持ち寄り感染予防の専門家に見て頂くなどしてはどうかとの意見があった。

## 【その他】

### ○ACPパンフレットについて

寺嶋部会長から、昨年度にアドバンス・ケア・プランニングのパンフレットについてワーキンググループを立ち上げて見直しを行った。徳島県統一として作成を行い、今年度は各がん診療連携拠点病院が印刷を行った。病院名が印刷されているものと、印刷されていないものがあり、印刷されていないものに関してはそれぞれの医療機関がゴム印など押印して配布していただきたいとの報告があった。

徳島県立中央病院有馬氏から、当院は5,000部印刷を行ったとの報告があった。

町田委員から、今後はこのパンフレットを活用していく予定である。

寺嶋部会長から、パンフレットのデータはどうなっているのかとの質問があった。

徳島大学病院宮越技術補佐員から、データは各がん診療連携拠点病院が持っており、印刷会社も共有しているため、印刷発注すれば病院名を入れて印刷していただける。当院も病院名入りを3,000部、名前なしを5,000部印刷した。5,000部については、今回の委員や当院との連携施設、保健所、訪問看護ステーション等に配布を行った。まだ、在庫もあるため必要な部数を連絡いただければ発送させていただきたいとの回答があった。

### ○緩和ケア部会副部会長選出について

寺嶋部会長から、以前はがん診療連携拠点病院の徳島県立中央病院勤務であったが、現在は阿南医療センターに勤務しており、出来れば副部会長として徳島大学病院の方に入っていただきたい。規約も出来ていないため、副部会長も置いていなかったが、部会長と副部会長で相談しながら行いたい。徳島大学病院の川人先生に副部会長になっていただきたいとの要望があった。

出席委員で検討した結果、了承された。

川人委員から、副会長就任の挨拶があった。

### ○その他

徳島県立中央病院有馬氏から、徳島県看護協会郡氏より看護協会ではケアマネージャー向け教育パンフレットを作成中とのことで、ACPの普及としてACPパンフレットの紹介や表

紙を掲載したいとの相談があった。掲載してもかまわないかとの伺いがあった。

出席委員で検討の結果、了承された。

米川委員から、「徳島県医療関係者とがん患者会等とのネットワーク構築研修会」として令和2年3月16日(月)にグランヴィリオにて18:30～20:30で開催を行う予定であったが、新型コロナウイルスの影響で延期となった。県会議員、企業、メディアの方にも参加いただく予定で災害などの緊急時にがん患者さんがどのようにすればいいのか、対応可能な徳島県の対応などについて討論できる場になればいいのではないかと考えていたが、終息してきたら再度開催を行いたい。協力をお願いしたいとの報告があった。

山村委員から、当院の緩和に対するレベルが低いため今後は勉強していきたい。関わる医師や看護師の次の世代に伝わっていないため人材育成にも努めていきたいとの意見があった。

岩下委員から、薬剤師会としては多職種連携を行っていきたい。緩和ケア研修会にも参加者を増やしていきたいとの意見があった。

寺嶋部会長から、薬剤師会では緩和の勉強会をしていないのかとの質問があった。

岩下委員から、緩和に関する研修会は行っているが実地に沿ってはいないところがある。緩和ケアの在宅と一緒に同行したりしているが人数制限があり難しい状況であり進んでいないとの回答があった。

勝瀬委員から、緩和ケア病棟がないため活動が十分に出来ていないが勉強会などは行っている。当院は在宅をメインにしているため多職種の連携を大事にしているとの報告があった。

延委員から、緩和ケアの活動が出来ていないが今年度がん看護緩和ケア認定看護師に合格したため、医師や薬剤師と連携しながら進めていきたい。緩和ケアチームも作りたいとの要望があった。

福川委員から、コロナ禍で環境の変化や不安があるなか、利用者に寄り添って退院支援や多職種連携を行っている。令和3年診療報酬改定で適切なマネジメントを行い、診療報酬上評価をしていただけることとなったとの報告があった。

片山委員から、第13回患者・医師間のコミュニケーションの質の向上を目指したコミュニケーション技術研修会を令和3年3月20日、21日オンラインで開催する予定であるとの案内があった。

宮本会長から、今回初めてオンラインでの徳島県がん診療連携協議会緩和ケア部会を開催し、参加いただいたお礼と挨拶があった。

寺嶋部会長から、閉会の言葉があり閉会となった。